

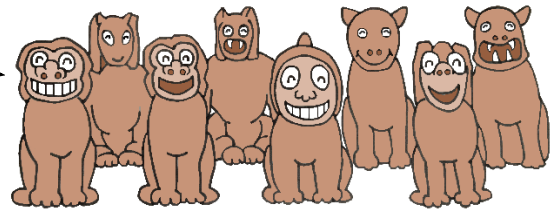
歴民だより

富山市亀谷1番地

電話 481-1415

「薬師岳」特集 — 令和2年度企画展・ミニ企画展より —

今年度、大山歴史民俗資料館では、「薬師岳」を年間テーマとし、企画展及びミニ企画展を開催しました。その一部を紹介します。



【有峰狛犬】

企画展「薬師岳入門—その歴史と自然—」

「薬師岳の圏谷群」

氷河の浸食によってできたカールは数多く存在しますが、国指定の天然記念物は「立山の山崎圏谷」と「薬師岳の圏谷群」のみです。ともに昭和20年2月22日に指定されましたが、そのうち「薬師岳の圏谷群」は昭和27年3月29日に特別天然記念物に指定替えになりました。日本のカールで特別天然記念物に指定されているのは「薬師岳の圏谷群」のみです。

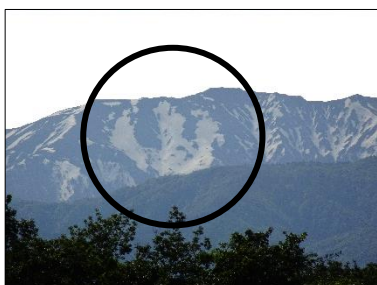


薬師岳開山伝説

むかし、有峰に「ミザの松」という男がいました。ある日、昼寝をしていると、「ミザの松・・・」と呼ばれました。目をさますと、光り輝く薬師如来がおられました。ミザの松が薬師如来のもとにかけよると、薬師如来は遠ざかってしまいます。ミザの松は、薬師如来を追いかけしていると、いつのまにか高い山に来ていました。やっと追いついたと思ったら、薬師如来は頂上付近のお堂に入って、姿が消えてしまいました。

薬師岳信仰登山

旧有峰村では、旧暦6月15日に15歳から50歳までの男子が総出で薬師岳に参拝していました。家を出るときは身を清め、頂上の近くからは裸足となり、願い事のある者は剣（剣の形をした鉄製品）を奉納したと言われています。



薬師岳の雪形

春が訪れ、雪解けとともに山々には様々な模様が浮かび上がってきます。古来、里の人々はそれらを見て、農作業の準備を始めたと言われていました。薬師岳の「山」文字は長期間望め、平野部からも近郊の山頂からもよく見えるため、私たちの目を楽しませてくれます。また、この「山」文字は、手招きする薬師如来に見えるとも言われています。

太郎平小屋の歩み

太郎平小屋の歴史は、大正12年に登山家の伊藤孝一氏が建設した「上ノ岳小屋」に始まります。昭和7年には、芦峯寺の志鷹範次が上ノ岳小屋を解体し、有峰からの旧道が稜線に出たところ（旧薬師峠）へ移築しました。しかし、昭和20年以降は管理者の無人状態が続き、小屋は荒れるにまかせたままでした。

昭和30年7月中旬、かねてから山小屋建設の意思を持ち続けてきた五十嶋文一氏によって太郎小屋は再興されました。2年目の昭和31年に太郎小屋は無残にも半ば倒壊しましたが、その年の7月中旬、上ノ岳から移築した旧太郎小屋跡に再建しました。

昭和32年に折立から太郎兵衛平までの新登山道（現在の太郎坂）ができ、登山者の利便性を考慮して、昭和33年に現在地へ移転新築しました。

昭和40年、太郎小屋を太郎平小屋と改めました。英文学者の田部重治氏が「太郎平小屋」の看板を書きました。以後、太郎平小屋は登山者の安全と環境保全の面から改築と改装を重ね、現在に至っています。



現在の太郎平小屋

ミニ企画展「薬師岳のある風景」写真展

皆様からご応募いただいた薬師岳の写真を撮影者の想いとともにご紹介しました。また、県内各地から見える薬師岳の写真もあわせて展示しました。（作品総数65点）

